

2025 年度(令和7年度)学校評価自己評価表

鳳中学校区	校番 1 1	福山市立鳳中学校
最終更新日	2025年(令和7年)4月17日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 中学校区としてめざす子ども像及び現状並びに課題についてよく分かった。 積極的な情報発信を行い、保護者や地域と更なる連携協力を推進することを期待している。	児童生徒の現状 地域の方に見守られながら穏やかに成長し、地域のために貢献してみようとする児童生徒が多い。 いっぽう、粘り強さに欠け、すぐに諦めてしまう傾向がある。	育成する資質・能力 めざす子ども像(義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 思考力・判断力・表現力 他者を理解し、関わる力 へこんでも立ち直る力 <p>「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理的に考え、他者の考えを尊重しつつ、自らの意見を主張することができる。 他者や集団のために、自ら考え、主体的に行動できる。 <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が必要な情報を読み取り、適切に表現する「学びづくり」の推進 自尊感情の高揚へつなく「クリーンプロジェクト」の推進 多様な価値観を認め合う集団の育成
--	---	---	--

III 自校

ミッション 郷土を愛し、変化の激しい社会を他者と協働しながら自律的に生きる生徒を育てる。
学校教育目標 翔び立つ ～ひたむきに 前向きに さわやかに～
現状 <生徒> ・地域の方に見守られながら穏やかに成長し、クラスや集団のために貢献してみたいと考える生徒が多い。 ・生活の中で成すべきことについて、正しい判断基準を持つ生徒が多い。 ・人間関係で悩む生徒が多く、一度こじれると修復したり、人の目を気にしたりする生徒が多い。 ・家庭でSNSやスマホを長時間使用する生徒が多い。 <授業> ・他者と対話し、自分の考えを広げたり深めたりすることについて価値を見出すことができる。 ・下学年の学習内容について積み残しをしているために、現在の学習内容を習得できない生徒がおり、学力の二極化が見られる。

育成する資質・能力	①思考力・判断力・表現力 ②他者を理解し、関わる力 ③粘り強く物事に取組む力
めざす子ども像	①③ 何事も粘り強く取組むことができる。
	①② 責任感をもって、自分の役割を果たせる。
	①② あいさつをしたり、相手を認めたりできる。
	①② 何事も自分事として捉え、協力して成し遂げることができる。
研究	テーマ 主体的に学ぶことのできる生徒の育成 ～生徒自身が成長を実感できる充実した振り返りを通して～
	内容等 <ul style="list-style-type: none"> 充実した振り返り活動を行い、生徒が学びを深めることのできる授業を展開していく。 教員がめざす生徒像を具体的にイメージし、発問や展開を工夫し授業を構想する。
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 学びを深める問いがある授業(生徒自身が教科の面白さを実感する問いがある) 学びを深める振り返りがある授業(自らの学びを調整しようとする場面がある) ゴールを明確にした授業(目指す生徒を意識し授業展開を構想している)

IV

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	力を入れた評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力を入れた評価	達成評価	総合評価
5	主体的に学ぶ生徒の育成	★	継続見直	生徒が自らの成長を実感できる授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で振り返り活動を工夫し行う。 振り返りの質向上のため、実践例の共有、検討を行う。 1教科1研究授業を実施し、授業力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 関連項目の生徒・教師アンケートの肯定的回答を80%以上 								
5	自己有用感の高い生徒の育成	★	継続見直	他者と協働することができる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 各行事での振り返りを活用し、生徒自身が「自己有用感」を実感するとともに、自己や学級の改善目標に取り組めるようにする。 「道徳」、「学活」等の学習を生かし、情報モラルについて日常的に考える機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身による学級状況の「把握」、「改善取組」の実施100% 「道徳」、「学活」等の学習に情報モラルに係わる内容を取り入れる。 関連項目の生徒アンケートの肯定的回答を80%以上 								
1	生涯を通して健康で安全な生活を送ることができる生徒の育成		新規	自らの健康や安全について適切に評価し、改善できる生徒	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による講義を積極的に取り入れる。 基本的な生活習慣を整える意識を持たせる取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 講義の振り返りで、学んだことを今後どのように生かしていくか考えられた生徒90%以上 関連項目の生徒アンケートの肯定的回答を80%以上 								
1	地域・保護者と協働した学校づくり		新規	コミュニティ・スクールの仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 関係小学校長と連携し、年3回の学校運営協議会の形を整える。 育てたい児童生徒像を地域と共有し、体験活動実施の際には、目標と活動を整合させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の学校運営協議会の在り方についてその都度協議し、方向性を模索する。 体験活動毎に目標と活動の整合性について振り返る。 								

1	持続可能な学 校を	★ 新規	教職員が本校で 勤務してよかつ たと思える学校 づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・組織として教育活動を行う。 ・生徒や授業等について学び合い、相談できる職員室文化を構築する。 	関連項目の教職員アンケートの肯定的回答80%以上														
---	--------------	---------	--------------------------------------	--	--------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。